

◆ 2023年度中学入試 帰国 算数 正答率・問いのねらい・講評

大問	問	正答率		問いの内容・ねらい	講評
		受験者	合格者		
1	(1)	90.2%	96%	・整数・小数・分数・またはその組み合わせの四則演算 ・計算の工夫 ・基本的な計算ができるかどうか。	(4)の正答率が他日程と比べて低い。計算の工夫を必要とする問題は、例年8割弱程度の正答率が見られる問題なので、受験生の対策が不足していたと思われる。
	(2)	95.1%	96%		
	(3)	82.9%	92%		
	(4)	65.9%	84%		
	(5)	85.4%	88%		
2	(1)①	61.0%	80%	・特殊算の基本的な文章問題 ・図形の基本問題	(1)は距離の問題だったが、①②ともに思いのほか正答率が低い。本校の過去問においても、同様の解法を必要とした問題は多いので、受験生には過去問演習に取り組みつつ、距離や代金などいろいろなパターンでの演習もしてもらいたい。 (3)は割合と個数の標準的な問題であったが、予想以上に正答率が低い。こちらも本校でよく見かける問題形式なので、過去問演習にしっかりと取り組んでもらいたい。 (6)②は空間図形だが、極端に正答率が低い。空間図形を苦手とする受験生は多いと予想するが、苦手単元をなくすよう、まんべんなく対策してほしい。
	(1)②	51.2%	72%		
	(2)①	82.9%	92%		
	(2)②	63.4%	80%		
	(3)①	39.0%	52%		
	(3)②	34.1%	40%		
	(4)①	73.2%	88%		
	(4)②	58.5%	68%		
	(5)①	39.0%	40%		
	(5)②	26.8%	36%		
	(6)①	73.2%	84%		
	(6)②	17.1%	24%		
3	(1)	56.1%	72%	移動する図形の重なった部分を想像し、面積を求めることができるか。	(2)は正答率が10%を切っており、受験生にとって難易度の高い問題であったと予想する。
	(2)	9.8%	16%		
4	(1)ア	87.8%	100%	与えられた条件を整理し、数の組み合わせを推理できるか。理由を人に伝える文章で書けるか(記述)。	(1)のア～オは、予想以上に正答率は高かった。問題文の誘導に従って、複数の条件の中から必要な条件を選び、筋道立てて考えることができたかと予想する。 (1)のカ・キは記述問題で、解答を見た限り、直接的な理由が何かを意識して丁寧に説明できれば、より正答につながったと感じられる。
	(1)イ	85.4%	96%		
	(1)ウ				
	(1)エ	90.2%	100%		
	(1)オ				
	(1)カ	61.0%	64%		
	(1)キ				
	(1)ク	53.7%	52%		
(2)	22.0%	28%			
5	(1)	41.5%	44%	グラフから二人の進み方を読み取ることができるか。	(2)については正答率は低いですが、本校の過去問において、類題が出題されていることから、過去問演習を通して、グラフから必要な情報を読み取れるようにしておきたい。
	(2)兄	14.6%	24%		
	(2)妹	22.0%	32%		

◆ 2023年度中学入試 帰国 英語 正答率・問いのねらい・講評

大問	問	正答率		問いの内容・ねらい	講評
		受験者	合格者		
I	1	68.3%	72%	基本語彙(2)と文法項目(1)(3)(4)(5)についての出題。文法項目は知識として知っているかが問われている。	英検3級相当の(1)であるthan any other 名詞の単数形以外は結果が芳しくなかった。コロケーションとしての(2)(3)(5)は、学習の経験が正答率に影響をしたと思われる。(4)は知識として知っているかが問われているが、正答率からすると学習したことのある受験生は少なかったようだ。
	2	46.3%	64%		
	3	19.5%	28%		
	4	29.3%	36%		
	5	53.7%	72%		
II	1	73.2%	84%	簡単な対話における適切な受け答えの補充。文脈をしっかり捉えられるかが問われた。	どの問題も良好であった。しっかりと会話の場面を想像する力が備わっているようだ。
	2	97.6%	100%		
	3	90.2%	96%		
III	1	82.9%	92%	海外では頻繁にあるパーティーを話題とした複数人による会話。文脈の中でキーとなる単語を拾い、主題を見つけることが問われた。	受験生全体として正答率が高かった。これは大問2と同様、会話の場面設定を想像する力が備わっていることが伺える。
	2	85.4%	96%		
	3	95.1%	96%		
	4	92.7%	100%		
	5	92.7%	100%		
IV	1	17.1%	24%	文法に即した英文を作ることができるかを問うている。日本語が与えられていない分、文法だけでなく語彙(イディオム)の知識があるかも問われた。	(1)は英検4級相当の感嘆文ではあるが、正答率が低いのは使用機会が少ないからだと思われる。それに対して(2)(3)は英検準2級程度である使役動詞や仮定法に関するもので、こちらが想定した範囲での正答率となった。
	2	63.4%	80%		
	3	46.3%	60%		
V	1	68.3%	64%	アメリカの古着屋に関する記事を読み、答える問題。全て選択肢より選ぶため、難しい表現をスキップしてでも文脈が捉えられるかを問うた。	受験生全体の正答率が50~60%代にとどまった理由として、「古着」という話題に受験生がイメージしにくかったことも考えられる。イメージを捉えられないが故に、全体の正答率もそこまで振るわなかったと考えられる。特に(4)は全て基本英単語であるため、正答率が50%代となると、基本英単語の知識がままならない受験生も半数いたと考えられる。
	2	65.9%	80%		
	3	51.2%	64%		
	4	58.5%	72%		
	5	46.3%	64%		
VI	1	43.9%	52%	睡眠に関する英文とグラフから内容を読みとる。事実と意見の区別が読み取れるかを問うた。	(1)のように未知語類推に対する取り組みが予想以上に正答率が高かった。前後の文脈から意味を類推する力はあると感じられた。(4)の記述問題は要点が3つ、しっかりと伝わる日本語で書けているかが勝負となったため、記述力のない受験生はつらい結果となった。
	2	73.2%	84%		
	3	82.9%	100%		
	4	32.1%	①		
	5-1	87.8%	96%		
	5-2	70.7%	80%		
	5-3	87.8%	96%		
	5-4	53.7%	②		
VII		30.2%		小学校時代に努力したこととそこから学んだこと、中学生になって頑張りたいこととその理由について問うた。	全体的に英作文の質が低かった。単語のつづりミスだけでなく、基本的な英文構造が破綻している受験生も多く、書くことに慣れていない受験生が多々見られた。

①記述6点分のうち平均2.44点

②英作文15点分のうち平均5.72点

◆ 2023年度中学入試 第1回 国語 正答率・問いのねらい・講評

大問	問	正答率		問いの内容・ねらい	講評
		受験者	合格者		
一	①	75%	83%	〈書き取り〉小学校4～6年性で習う漢字が書けるかどうかを試す。Bは同音異字を書く受験生がいるであろう。Cは「マイキョにいとまがない」という言い回しの存在自体を知らない受験生がいるかもしれない。	漢字の書き取りについてはしっかりと準備していたようである。特に「枚挙」という語彙に慣れていないと想定していたがよくできていた。
	②	89%	92%		
	③	96%	96%		
	④	73%	85%		
	⑤	77%	82%		
	⑥	93%	93%		
	⑦	85%	92%		
	⑧	95%	96%		
二	問一	81%	86%	〈抜き出し〉反対の意味を持つ漢字の二字熟語と判断し、適切な漢字を本文中から抜き出す問題。	「匂い」のもつ文化や社会性に基づく評論文。抽象度がやや高く、小説に比べ全体として正答率が低かったが、問五・問七では合格者と全体の正答率に差が出た。問八では、「くさい」と感じるものが、そこに住む人々が「くさい」と判断していることを我知らず身につけたものにすぎないかもしれないという筆者の主張を読み取りたい。問九は劇作家である筆者にとっての「表現」に言及したい。
	問二	49%	49%	〈記号〉慣用的な語句の意味を問う問題。本文の展開を把握していることも必要。	
	問三	22%	22%	〈記号〉筆者の抱いた感想の理由を問う問題。本文中の語句に引っ張られずきてはいけない。	
	問四	37%	39%	〈番号〉指示している内容を捉えて、抜き出した段落の入る場所を正しく判断できるかを問う問題。	
	問五	34%	40%	〈抜き出し〉条件を満たす一文を本文中から抜き出し、その文の初めの5字を答える。	
	問六	85%	86%	〈記号〉空欄に適語を挿入する問題。文章の展開が把握できているかを問う。	
	問七	38%	43%	〈記号〉擬人法的な表現の本文中における意味を問う。互いに似た表現の差異も見分ける力が必要。	
	問八	22%	22%	〈記号〉あるにおいをくさいと感じるかには、文化の影響もあるという主張が捉えられているかを問う。	
	問九	44%	54%	〈論述〉自己の私的な表現を、共同化したいという劇作家である筆書の持つ願望を説明させる問題。	
三	問一	91%	95%	〈記号〉主人公の心情把握問題。選択肢の曖昧な表現に惑わされない語彙力が必要。	長期入院中の男の子が短期入院の子とお別れする物語。状況が捉えられれば解答は〔二〕ほど困難ではなかったもよう。設問では傍線部の語句や登場人物の状況を手掛かりにして、本文に直接表現されていない心情を捉える力を問うた。
	問二	41%	45%	〈記号〉主人公の心情把握問題。本心があらわになることを避ける気持ちに気付きたい。	
	問三	94%	93%	〈記号〉慣用的な表現の本文中における意味を問う。漫画を読んではいるが、おそらく内容は読めていないことに気付けるかを問う。	
	問四	85%	89%	〈記号〉医師と「ぼく」のそれぞれ思いを、本文に即して適切に読み取れているかを問う。	
	問五	93%	95%	〈記号〉主人公の心情把握問題。自分の状況と、周囲の人々の状況を手がかりにして考える力を問う。	
	問六	77%	82%	〈記号〉主人公の心情把握問題。精神的に困難な状況にあることの適切な把握が必要。	
	問七	76%	78%	〈記号〉新参者である幼い子に対する、先輩にあたる主人公の心情を把握できるかを問う。	
	問八	98%	98%	〈記号〉6人中2人は、本文の解釈が明らかに不自然だと言える。その二人を正確に指摘できるかを問う。	

◆ 2023年度中学入試 第1回 算数 正答率・問いのねらい・講評

大問	問	正答率		問いの内容・ねらい	講評
		受験者	合格者		
1	(1)	94%	97%	分数・小数の四則演算、逆算、工夫して計算することができるか。	大方よくできている。基本的な計算力があることが合格の前提となる。
	(2)	90%	92%		
	(3)	91%	95%		
	(4)	86%	93%		
2	(1)①	96%	98%	割合、濃度、速さ、過不足、体積、角度等に関する基本～標準的な問題が解けるか。	典型題といって良い(1)～(3)は大方よくできているが、線分図を書くだけでは解けない(4)や、少し応用力を要する(5)②は合格者と不合格者で差が出た。(6)の角度を求める問題も今一つである。このあたりは確実に解いておきたい。
	(1)②	82%	85%		
	(2)①	96%	99%		
	(2)②	82%	89%		
	(3)①	86%	93%		
	(3)②	84%	92%		
	(4)①	62%	76%		
	(4)②	63%	77%		
	(5)①	76%	88%		
	(5)②	43%	64%		
	(6)①	67%	82%		
	(6)②	66%	82%		
3	(1)	87%	93%	指示された規則に基づき正しく演算ができるか。演算の結果から元の数を求められるか。	大方よくできていたが、(2)は合格者・不合格者でやや差が出た。指示通り着実に演算を重ねていけばできるはずである。
	(2)	73%	85%		
4	(1)	77%	92%	工夫して平面図形の線分の長さ、周の長さを求めることができるか。	(1)は大方よくできていたが、合格者・不合格者でやや差が出た。(2)は弧の長さだけを求めて終わってしまった答案が目立った。
	(2)	40%	58%		
5	(1)	74%	85%	速さの応用題、時間に伴う線分の長さの変化の様子を把握できるか。	(1)は大方よくできていたが、(2)(3)となるにつれ正答率が低くなった。まず進行方向が変わる時刻を抑えることがポイントである。ここを取るか否かで可否の差が出たと思われる。
	(2)	33%	51%		
	(3)	18%	32%		
6	(1)	16%	23%	与えられた度数分布表および条件からデータの平均値、中央値、最大値等を考察できるか。	(1)は難問ではないが複数選択しなければならないのでそこが難しかったようだ。「以上」「未満」という言葉の意味を正確に捉えて欲しい。(2)の出来は合否に影響したと思われる。(1)(3)は合格者もあまりできていない。
	(2)①	65%	85%		
	(2)②	17%	25%		

◆ 2023年度中学入試 第2回 国語 正答率・問いのねらい・講評

大問	問	正答率		問いの内容・ねらい	講評
		受験者	合格者		
一	①	78%	82%	<書き取り> 小学校4～6年生で習う漢字が書けるかどうかを試す。Bは細部を間違える子がいるであろう「敵」や似た字を書いてしまう子がいるであろう「揮」、Cは「術中」という言葉を語彙に持っていない子がいるであろうというくらいで、いずれも基本問題。「探検」は「探険」も正解とされている。	全体的に予想どおりの結果だった。⑥「術中」はやはり語彙にあるか否かの差が出た。 ②「発揮」の「揮」を「輝」と書いてしまう受験生が予想よりも少なかったことが喜ばしい。
	②	91%	92%		
	③	87%	93%		
	④	92%	95%		
	⑤	84%	84%		
	⑥	34%	44%		
	⑦	91%	95%		
	⑧	96%	96%		
二	問一	71%	78%	<記号> 筆者が挙げている具体例を確認する基本問題。	身近な「地域」へ参加していく姿勢について述べた文章。全体として簡単な分、一問一問をしっかりと正解できるかどうか、合否を分けた。 特に、問三と問七で合格者と全体の正答率の平均に10%以上の差が出た。 問三 本文が次の話題へ移った箇所に傍線を引き、その切り替わりと後の話題の内容把握能力を試した問題。傍線にぶつかるたびに問いにあたる習性をもっている受験生が、予想どおり誤った選択肢へ誘導された。 問七 昨年度まで設定していた200字意見文の大問を廃したかわりに新たに設定した、思考力を問う問題。本文の主旨を正しく把握して、誤った解釈をしている生徒の発言を見抜く力を試した。
	問二	88%	89%	<記号> ここまでの本文の内容（全体の3分の1）をまとめた一文に傍線を引いて、内容を正しく理解できたかどうかを確認する。	
	問三	74%	86%	<記号> 「地域」の範囲がこの後の本文で拡大して論が進んでいくことを含めて、筆者の考えを適切に読み取れているかどうかを試す。	
	問四	92%	97%	<記号> 接続詞の穴埋めを通して、前後の文脈の関係が把握できているか確認する。	
	問五	65%	69%	<論述> 筆者が地域参画の方法を大きく二つにわけて捉えていることが読み取れているかどうかを設問文を通して試し、その二つの内容と筆者の意見を捉えられているかどうかを論述を通して試す、二段階の問題。	
	問六	84%	90%	<記号> 本文の内容になぞらえながら二次熟語の漢字の成り立ちを考えさせる。	
	問七	57%	67%	<記号> 話しあっている生徒たちの発言の内容と示した図を見て、本文の内容を適切に理解できたかを確認する。生徒の示した図を通して追体験的に、受験生が本文の情報を正しくイメージできているかどうかという思考力を問っている。	
3	問一Ⅰ	93%	93%	<記号> 語彙問題。本文中の言葉だが、単語だけ見ても解答可能な基本問題。	小学生の女の子の成長と、それを見守る祖母や人形の様子を追っていく文章。（二）と比べて細かい内容を問う問いが多かった。意図して設定したもので、本校の受験生にはぜひ下記の点も見抜けるようになってほしい。 問六 （二）と同様に、新たに設定した、本文の内容を図式化した説明の空欄を埋める形式の、思考力を問う問題。自分の言葉で説明する(1)・(3)の意図を設問から読み取ることができなかった受験生が多かった。 問七 女の子の成長を感じた人形の、楽観できないながらもその成長を喜んでいることを読み取って説明する論述問題。楽観できない理由についても説明を加えなければならないことに気づけない受験生が多かった。
	問一Ⅱ	96%	98%		
	問二	63%	74%	<記号> 成長の前の場面における主人公の心情を確認する問題。リード文も情報に含めて、事実の有無を確認させる。	
	問三	86%	90%	<記号> 精神的に成長する直前の場面の主人公の心情を確認する問題。解答根拠となる箇所に「呻吟」という難しい言葉が混じっているが、注釈をつけているので、わからない場合はこれを情報に含められるかどうか関係する。	
	問四	80%	87%	<記号> 主人公の周辺人物が主人公をどう見ているかを確認する問題。短い台詞を理解するために、ここまでの情報をすべて正しく理解している必要がある。	
	問五	46%	55%	<記号> 指示語の内容と婉曲的な表現の言い換えの二つを同時に試す問題。	
	6-(1)	36%	47%	<記号> 登場人物が断片的な言葉で自分の連想を伝えている場面を、問いに付された図を通して解釈する問題。言語化する力の基盤となる思考力を試している。	
	6-(2)	74%	84%		
	6-(3)	3%	5%		
7	48%	61%	<論述> 主人公の精神的な成長を、周囲の人物の視点を通して捉える。婉曲的な表現を自分なりに言い換える表現力も必要。		

◆2023年度中学入試 第2回 算数 正答率・問いのねらい・講評

大問	問	正答率		問いの内容・ねらい	講評
		受験者	合格者		
1	(1)	86%	90%	計算問題（四則計算、逆算、計算の工夫）。 筆算ができるか、計算のきまりを理解しているかをみる。また、計算の正確性や速さをみる。	(1)、(2)、(4)はよくできていた。 (3)は、分数と小数などが混在した逆算の問題であり、正答率が低かった。小数を分数に直して計算することを意識してほしい。
	(2)	91%	95%		
	(3)	70%	82%		
	(4)	81%	88%		
2	(1)①	95%	96%	小問集合（売買損益、速さ、濃度、角度、長さ・面積、場合の数）。 計算力や基礎力を問う。	(1)①の正答率が高いが、②は正答率が低くなっている。定価で売ったときと値引きして売ったとき、それぞれの場合の利益を明確にしておく必要がある。 (2)の速さの問題の正答率に関しては、全生徒と合格者の正答率の差が大きい。図をかいて状況を把握することが求められる。 (6)①の正答率は非常に高い一方で、(6)②の正答率が低い。表などを用いて、考えられる状況を漏れなく数えあげられるようにする練習が必要である。
	(1)②	70%	77%		
	(2)①	57%	77%		
	(2)②	57%	79%		
	(3)①	95%	99%		
	(3)②	62%	79%		
	(4)①	94%	99%		
	(4)②	89%	94%		
	(5)①	78%	93%		
	(5)②	63%	77%		
	(6)①	96%	99%		
	(6)②	29%	46%		
3	(1)	91%	98%	整数の性質。 状況を整理して数の大小を考えられるかをみる。また、その根拠を論理的に述べることができるかをみる。	(1)の正答率は非常に高く、2数の和の大小関係について正確に把握できている。(2)の記述に関しては、伝えたい内容は分かるが十分な説明になっていない解答が多く見られた。
	(2) アイウ	75%	94%		
	(3)	66%	87%		
4	(1)	40%	54%	投票数に関する問題。 状況を整理して考えられるかをみる。	(1)から正答率が低く、(2)は空欄も目立った。このタイプの問題に関して対策をしていない受験生が多いのかもしれない。
	(2)	8%	14%		
5	(1)	31%	56%	速さとグラフ。 グラフから必要な情報を読み取り、2人の位置関係を把握できるかをみる。	本校の入試では頻出の速さとグラフの問題であったが、(1)から全受験生の正答率は低い。また、(1)に関しては、全受験生と合格者の正答率の差が大きい。本校の受験生には、ぜひ確実に解けてほしい問題であった。
	(2)	19%	33%		
	(3)	14%	30%		
6	(1)	17%	31%	図形問題。 図形の性質、回転数と円の中心が通ったあとの関係性を把握できているかをみる。	(1)、(2)とも正答率が悪い。円の中心が動いてできた線を正確にかけていない可能性がある。また、大問4までに時間がかかり、大問5、6に到達できていない受験生も見受けられた。
	(2)	10%	21%		

◆ 2023年度中学入試 第2回 理科 正答率・問いのねらい・講評

大問	問	正答率		問いの内容・ねらい	講評
		受験者	合格者		
1	(1)	77%	84%	地学分野に関する知識や思考力を問うや問題やいくつかの問題に関しては、既存の知識をもとに図を参考にして、解を求める問題を出題した。(1)、(2)は地形の形成に関する問題、(5)は磁石の性質をもとにした地磁気に関する問題、(6)(7)は地球の歴史に関する問題となっている。	知識を問う問題は全体的によくできていた。しかしながら、(4)と(5)問1には、全生徒の正答率と合格者の正答率に差が見られた。また、(2)の計算問題や、(5)問2の磁石の性質をもとにした地磁気に関する問題には高得点者の中でも不正解が見られた。
	(2)	27%	30%		
	(3)	48%	49%		
	(4)	60%	72%		
	(5)問1	52%	62%		
	(5)問2	49%	57%		
	(6)	44%	50%		
	(7)	87%	92%		
	(8)	59%	69%		
2	(1)①	71%	79%	(1)～(3)は状態変化・溶解度の知識を確認する問題を出題した。 (4)～(7)は小学校では取り扱わない反応を題材にしたが、溶液や気体に関する知識の確認ならびに問題文および実験結果から必要な情報を読み取り、結果の処理ができるかどうかを問う問題を出題した。	知識を問う問題は全体的によくできていた。ひらがなで答えることを指定されている問題を、漢字で答えてしまうミスが見られた。(3)の溶解度の計算および(7)の実験の結果を読み取って計算する問題で、全受験生と合格者の間で大きな差があった。特に(7)では表を読み取り、反応前後の重さの変化に気づけるかがポイントであった。
	(1)②	93%	98%		
	(2)	63%	71%		
	(3)	65%	82%		
	(4)	92%	94%		
	(5)①	86%	91%		
	(5)②	75%	85%		
	(6)	97%	97%		
	(7)①	56%	77%		
	(7)②	26%	46%		
3	(1)	59%	70%	身近な自然(植物)の四季の変化を、実験を通して理解することをテーマとした。前半は基礎的な生物学的知識を、後半部分では実験考察を問うものとなっている。小学校ではなじみのない実験ではあるが、文章を読んでいくことで理解ができるようになっていく。実験内容・結果を正確に読み取り、考える力を問うものとした。	植物名や植物の基礎知識を問う前半の問題は、全体的によくできていた。 一方、実験問題に関しては、実験結果の読み取りに関しては特に全受験生と合格者で大きな差が見られた。問題の順を追って実験結果の考察をしていくような形式にしたが、最後の正しい考察を選択する問題でも、全受験生と合格者で大きな差が見られた。
	(2)	47%	53%		
	(3)	95%	97%		
	(4)	2%	4%		
	(5)	98%	98%		
	(6)	43%	54%		
	(7)	88%	92%		
	(8)	46%	54%		
		(9)	55%		
4	(1)	92%	96%	机上で、棒が落ちないように積み重ねることを題材にした。(1)・(2)では、力のつりあいや、てこの原理の基本的な内容を確認しました。(3)～(5)で棒が落ちないように積み重ねることができる理屈を問いながら進め、(7)・(8)で前問までの知識を複雑な状況に適応できるかどうか問うた。	(1)・(2)力のつりあいや、てこの原理の基本的な知識はよくできていました。(5)から正答率が下がったが、棒が落ちる条件を(5)で理解できたかどうかで、合格者と不合格者で結果が分かれた。
	(2)	71%	75%		
	(3)	58%	71%		
	(4)	90%	95%		
	(5)	50%	60%		
	(6)	38%	51%		
	(7)①	23%	41%		
		(7)②	20%		
	(8)	1%	3%		

◆ 2023年度中学入試 第2回 社会 正答率・問いのねらい・講評

大問	問	正答率		問いの内容・ねらい	講評
		受験者	合格者		
1	問1X	96%	98%	日本の気候については、毎年雨温図を出題しているが、例年と異なる形式の図で判断をするものにした。考えるべきことに変わりはないが、その場で柔軟に対応できるかを問うている。また、記述問題は「なぜ」そのようになっているのか、について日頃から単なる暗記事項としてではなく、背景や原因まで考えて学習を重ねられているかを確認する問題としている。例年通り、写真に関する問題を設けており、日常から身の周りの景観などに興味関心を持って生活できているかどうか、を確認している。	問6のような、日本の気候に関する問題は多くの受験生が正答できていた。出題する場所は毎年同様のものであるため、雨温図ではない形式で出題されていても対応することができていたようである。問2(1)は、日本に関係ある国々を「資源」という視点から問うた問題である。原油の輸入先はおおむね判別できていたが、石炭と天然ガスの判別で間違えた人が多かった。産業やエネルギーという切り口から日本とどのようなかわりがあるのか日頃から関心を持つ必要がある。問9(1)は合格者の正答率が高かった問題である。日本の農業産出額に関する問題は以前も出題したことがあるが、日本における農業が抱える問題点と関連付けて勉強していくことが必要だろう。(2)は農家の経営規模に関する文Yの判別で正答率が分かれた。問11(2)は、3大都市圏を構成する都道府県のその位置関係が正確に学習できているかがポイントである。普段から地図を見る習慣を怠らないようにしたい。また、各都道府県がどのようなつながりを持っているのか関連性を導く思考力を身に付けたい。記述問題では、事象そのものについての理解はもちろん、問7の沖縄県の水不足に関する問題のように、事実を知っているのみならず、そのメカニズムまで理解しようとしているかを追究する習慣があるかが合格者と不合格者を分けたと思われる。また、問12では、日常にある景観から「案内図」とはどのような目的で作られているのかを考える問題であり、使う人の立場に立って考える想像力を言語化できたかが正誤を大きく分けた問題となった。
	問1Y	86%	93%		
	問2(1)	41%	51%		
	問2(2)	63%	74%		
	問3	44%	50%		
	問4	46%	55%		
	問5	35%	37%		
	問6A	96%	99%		
	問6B	92%	96%		
	問6C	87%	87%		
	問6D	88%	86%		
	問7	47%	61%		
	問8	21%	22%		
	問9(1)	53%	64%		
	問9(2)	25%	28%		
	問10	51%	61%		
問11(1)	89%	97%			
問11(2)エ	43%	57%			
問11(2)オ	50%	57%			
問12方位	57%	65%			
問12説明	38%	53%			
2	問1(1)	38%	43%	人の移動や交流、物や情報などの交換に関する問題を通じて、小学校で学習する歴史の基本的な知識を習得し、歴史の大きな流れを理解しているかとともに、絵画・図版や文字などの各種史料だけでなく、設問文そのものも史料ととらえ、問題全体に粘り強く向き合い、適切に読み解くことができるかどうかを問うた。	「単語を覚える」といった基本的な学習については、多くの受験生が概ねできていた。一方、「その単語の内容」や「その単語の時期」となると理解度に一定の差が見られた。資料をもとに考察して解答する問題や、2つの資料を丁寧に読み取って解答する問題などで、受験生の間で問題に臨む姿勢に違いが見られ、合格者は丁寧に読み取ろうとする姿勢が全受験生のなかでは高かったと思われる。資料を通じてこれまで学習してきた「常識」を問い直す問題では、多くの受験生が「常識」を解答しており、日頃の学習から設問文や資料を丁寧に読み取るといった取り組みが行うなど、学習習慣の見直しが必要であると感じた。
	問1(2)	75%	77%		
	問1(3)	49%	57%		
	問2(1)	89%	96%		
	問2(2)	84%	93%		
	問2(3)	22%	26%		
	問3(1)	75%	79%		
	問3(2)	86%	93%		
	問4(1)	90%	96%		
	問4(2)C	83%	94%		
	問4(2)D	81%	84%		
	問4(3)	84%	87%		
	問5(1)	88%	95%		
	問5(2)	1%	0%		
	問6(1)	53%	64%		
	問6(2)	75%	88%		
	問7(1)	62%	70%		
	問7(2)	69%	78%		
問7(3)	51%	63%			
問7(4)	34%	45%			
問7(5)	67%	74%			
3	問1	86%	92%	2022年上半年期にあったニュースを題材に出題した。問1は時事的な内容であるが、一般的な知識として知っておいてほしい内容である。また、夏に参議院議員選挙が実施されたことから、選挙の仕組みについては問5で基本的な知識を複数問にわたって確認した。	多くの受験生が基本的な用語及び国会や内閣の仕組みは概ね理解できていた。しかし、その一方で、今年度実施された参議院議員選挙を題材として出題した選挙に関する問題の正答率が低かったことについては、国政選挙と地方公共団体における被選挙権の違いや、法律案や憲法改正の発議の要件など、丁寧な知識の整理ができていなかったようで、この問5は合否を分ける問題となったと思われる。単語の意味を問う問題(今年度の場合は「与党」)は正答率が低くなる傾向にあり、ただ単語を暗記するのではなく、その用語・事象の理解を深めてほしい。
	問2	88%	94%		
	問3(1)	53%	62%		
	問3(2)	63%	73%		
	問4(1)	41%	46%		
	問4(2)	72%	77%		
	問5(1)	39%	51%		
	問5(2)	46%	58%		
	問5(3)	14%	22%		
問6	出題ミスにより全員正解				

◆ 2023年度中学入試 第3回 国語 正答率・問いのねらい・講評

大問	問	正答率		問いの内容・ねらい	講評
		受験者	合格者		
一	①	97%	97%	〈書き取り〉小学校4～6年生で習う漢字が書けるかどうかを試す。すべて基本的な問題であるが、「興味」や「憲法」等普段目にする機会が多いものの正確に書くことが難しい漢字をBに設定した。	全体的に予想どおりの結果だった。特によく識別機能を果たしたと考えられる漢字は「預金」「民衆」である。「預金」については、語彙に持っていたかどうかを正否を分けたものと考えられる。「民衆」については「衆」そのものの漢字の難しさが正否を分けたものと考えられる。
	②	90%	97%		
	③	83%	100%		
	④	98%	100%		
	⑤	93%	100%		
	⑥	61%	63%		
	⑦	89%	100%		
	⑧	90%	93%		
二	問一	55%	80%	〈記号〉傍線を含む段落を本質的に理解できているか確認する。	"今日の科学"によって解ける問題と解けない問題があることを説明した文章。〔三〕と比べると全体として難しかった分、論述を正確に解答できるかどうか、合否を分けるポイントとなったといえる。 問一 傍線を含む段落を本質的に理解できているか確認する問題。記号問題のなかでは、受験者正答率と合格者正答率の乖離が最も大きく見られた。 問九 昨年度まで設定していた200字意見文の大問を廃したかわりに新たに設定した、思考力を問う問題。本文の主旨を正しく把握して、誤った解釈をしている生徒の発言を見抜く力を試した。
	問二	59%	67%	〈記号〉接続詞の穴埋めを通して、前後の文脈の関係が把握できているか確認する。	
	問三	44%	63%	〈記号〉本文の順序整理を通して、論理構造を理解できているか確認する。	
	問四	66%	63%	〈記述〉語彙を確認する基本問題。	
	問五	76%	93%	〈記号〉ここまでの本文の内容（全体の2分の1）を具体例に落とし込んだ一文に傍線を引いて、内容を正しく理解できたかどうかを確認する。	
	問六	36%	100%	〈論述〉科学とはどういうものとされており幽霊は何故それに合致しないのか、について理解できているか確認すると同時に、それを論理的に説明する力があるかを試す、二段階の問題。	
	問七	77%	97%	〈記号〉本文終盤の内容（全体の5分の1）のきっかけとなる一文に傍線を引いて、内容を正しく理解できたかどうかを確認する。	
	問八	51%	60%	〈記号〉空欄補充を通して、本文全体と本文終盤の関係性を理解しているかどうか、および難しい語彙に対して意味を推測する力があるかどうかを確認する。	
	問九	61%	67%	〈記号〉話しあっている生徒たちの発言を通して、本文の内容を適切に理解できたかを確認する。受験生が本文の情報を俯瞰して理解できているかどうかという思考力を問っている。	
三	問一 i	98%	100%	〈記号〉本文中での語句の意味を確認する基本問題。	小学生の男の子が同級生や先生との関わりを通じて成長していく様子を追っていく文章。〔二〕と比べると全体としてやや簡単な分、一問一問をしっかりと正解できるかどうか、合否を分けるポイントとなったといえる。 問三 場面転換を挟む主人公と主人公の母の台詞が持つ役割について答える問題。主人公が学校で行ったことが、家庭で主人公に返ってくることになった展開から、物語を俯瞰して見る力を問うた。 問七 〔二〕と同様に、昨年度まで設定していた200字意見文の大問を廃したかわりに新たに設定した、思考力を問う問題。本文の主旨を正しく把握して、誤った解釈をしている生徒の発言を見抜く力を試した。
	問一 ii	95%	100%	〈記号〉本文中での語句の意味を確認する基本問題。	
	問二 i	78%	93%	〈記号〉大島先生の人物像を指定の場面から判断できているか確認する問題。	
	問二 ii	87%	93%	〈記号〉大島先生とのやり取りで、主人公が気持ちのやり場に困っていることを読み取れているかを確認する問題。	
	問三	77%	87%	〈記号〉主人公が学校で行ったことが、家庭で主人公に返ってくることになった展開から読み取れる事柄を理解できているか確認する。	
	問四	4%	8%	〈論述〉主人公の心情を、情景描写を手掛かりに論述する力があるかどうかを確認する。	
	問五	58%	60%	〈記号〉主人公の心情の変化を情景描写などから把握できているか確認する。	
	問六	73%	83%	〈記号〉「ジャングル」という存在が持つ作中での意味を、捉えることが出来ているか確認する。	
問七	82%	83%	〈記号〉話しあっている生徒たちの発言を通して、本文の内容を適切に理解できたかを確認する。受験生が本文の情報を俯瞰して理解できているかどうかという思考力を問っている。		

◆ 2023年度中学入試 第3回 算数 正答率・問いのねらい・講評

大問	問	正答率		問いの内容・ねらい	講評
		受験者	合格者		
1	(1)	94%	100%	【計算問題】整数や分数、小数の基本的な四則計算を正確に処理する力を持っているか。	(1)の整数の四則計算は全員が良くできていた。(4)は四捨五入の基本的な考え方だが、不合格者の正答率が56.8%と、合格者の正答率と大きな差が出た。
	(2)	84%	90%		
	(3)	83%	87%		
	(4)	60%	90%		
2	(1)①	91%	100%	【小問集合】過不足算、割合、割り算の性質、年齢算、比、図形の、典型的な問題を、しっかりと考え、確実に処理できる力を持っているか。	(2)割合、(5)比、(6)図形で全体の正答率がやや下がった。細かな計算が必要となるため、途中でミスしたものと思われる。 (6)②の、紐の先端が辿る道のりの長さは、計算の工夫をすることでミスを防ぐこともできる。
	(1)②	88%	97%		
	(2)①	74%	93%		
	(2)②	73%	97%		
	(3)①	90%	97%		
	(3)②	66%	93%		
	(4)①	76%	90%		
	(4)②	73%	93%		
	(5)①	71%	93%		
	(5)②	66%	83%		
	(6)①	94%	100%		
	(6)②	39%	67%		
3	(1)	69%	90%	【立体図形】2つの円柱型容器の側面に関する条件から、底面積比や水の量を正確に捉えられるか。	(2)の不合格者の正答率は10.8%であり、公式はただ使うだけでなくその意味を深く理解することも大事である。
	(2)	14%	50%		
4	(1)	74%	90%	【整数】2枚のカードを組み合わせてできる整数の個数を、文章の意味を理解して正しく求められるかどうか。	(2)の理由を記述する問題は、「2回数えている整数がある」ことを合格者の多くは書けていた。短い文章でも、その考えを正しく伝えられるかがポイントである。
	(2)	61%	90%		
	(3)	17%	43%		
5	(1)	77%	100%	【過不足算】信号を渡る状況を理解した上で、渡りきるために必要な走る時間を求められるかどうか。	(2)は不合格者の正答率が19.4%であった。計算は難しくないが、問題文から状況を読み取る力が必要であった。
	(2)	24%	77%		
6	(1)	12%	43%	【速さとグラフ】2台のバスが走る様子をグラフから読み取り、必要な値を計算し求めることができるかどうか。	まずグラフから「PQ間の距離が2.4km」「QR間とRP間の距離の差は1.6km」であることを理解しないと解けないので、正答率が低かった。
	(2)	11%	37%		
	(3)	2%	17%		

◆2023年度中学入試 第3回 理科 正答率・問いのねらい・講評

大問	問	正答率		問いの内容・ねらい	講評
		受験者	合格者		
1	(1)	29%	47%	(1)～(6)は、手回し発電機のハンドルのまわし方によって生じる電流の向きが異なることを基本にして、与えられた情報を整理して解答を導き出すことができるかを確認する問題であった。 (7)～(11)は、身のまわりにある道具を題材にして、てこのしくみを理解できているかを問う問題であった。	全体として、正答率が非常に低かった。複数解答であった影響が大きいと考えらる。 (1)は3つの選択肢のすべてを検討していないと思われる解答が多くあった。[1]の他の問題も同様の傾向があると同時に、問題文から接続の仕方を整理することが受験生にとって非常に難しかったようである。(7)は、基本的な内容であったが問題文の空欄に当てはまるように注意をして正解してほしい問題であった。(11)は、左端を支点と書いてあることを読み取れていなかった解答が目立った。 教科書には、理科で学ぶことが生活の中のどのようなものに関係しているのかの例が取り上げられている。身近な理科を意識して、日常生活を送ってみてほしい。
	(2)	17%	30%		
	(3)	34%	30%		
	(4)	4%	13%		
	(5)	40%	45%		
	(6)	8%	17%		
	(7)	62%	73%		
	(8)	42%	50%		
	(9)	9%	30%		
	(10)	17%	47%		
	(11)	28%	43%		
2	(1)	74%	80%	多くが火山をテーマにした地学の基本的な問題であり、ハザードマップなど安全面などについても幅広く学習をしているかを問うものを出题した。また火山から、物理的や生物的や化学的な解釈ができるか、最後の問題は美術的な内容にもからめて総合的な力を確認する問題となっている。	(1)、(2)、(3)③、(4)、(5)、(8)は地学の基本的な問題であり、多くの受験生が正答できていた。(7)は火山灰の特徴であり、もっとできて欲しかった基礎的な問題であったが、正答率が低かった。また(3)②や(6)については、地学の応用的な問題であり、正答率はぐっと下がっている。より発展的な問題で、太陽と地球の動きまで考えさせる問題の(9)は、多くの生徒ができていなかった。教科書をしっかり学ぶことと、探究的なトピックについても、興味をもって自分自身の生活と照らし合わせ、考える力を高めてもらいたいです。
	(2)	69%	80%		
	(3)②	45%	80%		
	(3)③	91%	90%		
	(4)	72%	87%		
	(5)	79%	90%		
	(6)	56%	70%		
	(7)	26%	30%		
	(8)	60%	70%		
(9)	32%	37%			
3	(1)T1	94%	100%	「固体・液体・気体」の状態変化をテーマとした化学分野の問題であった。前半は小学校でも学ぶ状態変化の基本的な知識を問う問いを出題した。後半は小学校では直接取り扱わない内容も多かったが、文章やグラフをきちんと読み取ることできれば解答できる思考力を問う問題であった。	(1)～(3)および(5)は基本的な問題であり、多くの受験生が正解できていた。そのような中、(1)の水が沸騰する温度や(5)の固体から気体に変化する例を問う問題の正答率に全受験生と合格者の間で大きな差があった。その他は思考力を問う問題であるが、(6)、(7)の図を読み取る問題の正答率が合格者はとても高かった。
	(2)T2	78%	97%		
	(2)	87%	90%		
	(3)	67%	63%		
	(4)	61%	80%		
	(5)	73%	93%		
	(6)	33%	59%		
	(7)	39%	73%		
	(8)	40%	57%		
(9)	8%	23%			
4	(1)	62%	80%	顕微鏡の使い方や、血液循環に関する基本的な知識を問う問題と、問題文を読み解く読解力を図る問題と出題している。読解力を図る問題は、小学校で取り扱わない内容であり、文章と問題の意味を正確に読みとる必要がある。	基本的な知識を問う問題においては、合否関係なく正答率が高かった。ただ、(6)においては全体的に正答率が低く「毛細血管」という語句を文章中から抜き出すことが難しかったといえる。また、読解力を問う問題で、合否に影響を与えた。ただ知識を詰め込むのではなく、日頃から丁寧に文章を読み解く練習が必要である。
	(2)	76%	100%		
	(3)	49%	69%		
	(4)①	85%	100%		
	(4)②	75%	93%		
	(5)	59%	77%		
	(6)	10%	17%		
	(7)	70%	79%		
	(8)	8%	17%		
(9)	35%	43%			

◆ 2023年度中学入試 第3回 社会 正答率・問いのねらい・講評

大問	問	正答率		問いの内容・ねらい	講評
		受験生	合格者		
1	問1(1)	65%	83%	「なぜ地理を学ぶ必要があるのか」をテーマにしたリードを読み進める中で、基礎的知識・技能、資料の読み取り、地理的事象の背景や関連性を問う内容とし、自然環境、県の位置、工業、人口、農業、貿易など幅広く出題した。資料の読み取りについては学習してきた知識と資料とを関連づけて考えられるか、また、地理的事象の背景・関連性について問う正誤問題では文や資料を適切に読み取れるかを意図して作問した。	問1(1)・問1(3)・問4のような基本的な知識・技能に関する問題はよくできていた。また、問3(2)のような本校でよく出題される資料に関する問題もよくできていた。受験生の学習の成果を感じることができた。一方で問1(2)や問5、問8のように、図中や問題文中に判断材料となる事柄がある場合、それらに留意できなかった受験生が多かった。問題文を丁寧に読み、そこからヒントを得られた受験生は対応できたと思われる。
	問1(2)	28%	47%		
	問1(3)	71%	77%		
	問1(4)	100%	100%		
	問2(1)	53%	50%		
	問2(2)	70%	77%		
	問2(3)	88%	80%		
	問2(4)	62%	67%		
	問3(1)	47%	67%		
	問3(2)東	86%	100%		
	問3(2)奈	56%	73%		
	問3(3)	47%	60%		
	問4ア	77%	83%		
	問4エ	84%	97%		
	問5	43%	52%		
	問6	26%	38%		
問7	64%	83%			
問8	37%	45%			
2	問1	85%	93%	設問を通して、小学校で学習する歴史の基本的な知識を習得しているか、歴史の大きな流れを理解しているかと問う出題とした。また、習得した知識に向き合い、活用する力を問うため、設問文を読みながら各時代の特徴を読み取り、判断する設問を出題した。	基本的な知識や用語を選択させる設問の正答率は高かった。また、基本的な時代整序にも近現代史を除いて正答率が高かった。資料（史料）の読み取りや考察にも対応できる受験生が多かった。記述問題にも取り組んだ受験生が多かった。一方で、正誤の組合せを判断させる設問の正答率は低い傾向がみられた。歴史的な事象についての内容や因果関係を問う設問の正答率も低い傾向にあった。
	問2	86%	83%		
	問3	67%	87%		
	問4	92%	97%		
	問5	54%	70%		
	問6	89%	100%		
	問7	85%	83%		
	問8	83%	100%		
	問9	87%	90%		
	問10	52%	53%		
	問11	79%	73%		
	問12	97%	97%		
	問13	87%	97%		
	問14	78%	93%		
	問15	76%	90%		
	問16	91%	93%		
	問17	48%	47%		
	問18	51%	60%		
	問19	71%	77%		
	問20	56%	53%		
	問21	88%	93%		
	問22	55%	50%		
3	問1	35%	43%	沖縄の本土復帰50周年にちなんで、沖縄の米軍基地問題をテーマとして問題を作成した。問題は主に3つの種類で構成されている。1つは、内閣や地方自治、人権など公民的分野の一般的な知識を問う問題。2つ目は沖縄に関する時事的な知識に関する問題。3つ目は問題で提示されたデータやリード文をしっかりと読み取って解答しなければならない問題である。公民的分野に関する基礎的な知識を確認するとともに、自分の知識とデータや文章からの情報を組み合わせて考える力を問う問題構成とした。	多くの受験生は三権に関する基本的な知識は多くの受験生は身に付けており、正答率が高かったが、地方自治については差が出る結果となった。時事に関するデータから判断する正誤判定問題は大きな差が出た一方、普天間基地の場所を問う単純な知識を答える問題は比較的よく出来ていた。受験生には時事についての知識をただ暗記するのではなく、その問題に関する情報から考える力を日頃から養ってほしい。
	問2	16%	23%		
	問3	53%	63%		
	問4	53%	47%		
	問5	47%	43%		
	問6	73%	87%		
	問7	80%	93%		
	問8	92%	97%		
	問9	49%	57%		
	問10	19%	40%		